

指揮者が違うと何が違うの？ - ザンデルリンクの場合

今年09月19日に95歳の誕生日を迎え、ベルリン・フィルとコンツェルトハウス管(旧ベルリン交響楽団)からそれぞれお祝いの演奏会を贈られた、クルト・ザンデルリンクの演奏を聴いてみよう。

ザンデルリンクは、1912年プロイセン生まれ。1912年という年は当たり年なのか、前回聴いて頂いたチェリビダッケを始め、ギュンター・ヴァント、ゲオルグ・ショルティ、エーリッヒ・ラインスドルフ、イーゴリ・マルケヴィッチと名指揮者が生まれている。

ナチスから逃れて旧ソ連に亡命し、長年ムラヴィンスキの下、旧レニングラード・フィルの指揮者を務めた。戦後、主に旧東ドイツで活躍し、70年代以降は旧西側でも活躍した。読売交響楽団の名誉指揮者でもある。

僕には未だに一言で説明出来ない指揮者だった。普段は、強烈に盛り上げることもなく飄々とした演奏をしていたが、ウェーバのオベロン序曲の様に、チェリビダッケ並の緻密な音楽を聴かせてくれたこともあった。一方、ショスタコーヴィッチだけは、何時も、まるで自分の書いた曲だと言わんばかりに、嬉しそうに振っていたのが印象的だった。

2000年頃までは高齢にも拘わらず殆ど毎月欧州各地で客演を繰り返していたが、突然キャンセルが続く様になり、2002年05月19日、当時のベルリン交響楽団と行った引退演奏会を最後に指揮していない。

*** プログラム ***

ブラームス：ハイドンの主題による変奏曲

クルト・ザンデルリンク指揮ベルリン交響楽団 (2002.05.19Live)

ベートーヴェン：序曲「コリオラン」

クルト・ザンデルリンク指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(1992.06.16 ベルリン、フィルハーモニーホールLive)

サン・サーンス：ピアノ協奏曲第2番ト短調 から

イエフム・ブロンフマン (ピアノ)
クルト・ザンデルリンク指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(1992.06.07 ベルリン、フィルハーモニーホールLive)

*** 休憩 ***

ショスタコーヴィチ：交響曲第15番 から

クルト・ザンデルリンク指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(1999.03.16 ベルリン、フィルハーモニーホールLive)

シューベルト：交響曲第8(9)番ハ長調「ザ・グレート」から

クルト・ザンデルリンク指揮アムステルダム・コンセルトヘボウ管弦楽団
(1994.11.18 アムステルダム、コンセルトヘボウLive)